

## 赤土山古墳の地震跡

高松塚古墳、キトラ古墳、酒船石遺跡、平城宮跡……いずれも全国的にも知られた奈良県内の史跡ですが、それらには一つの共通点があります。それは、発掘調査などで地震の痕跡が見つかったという点です。遺跡などから見つかる地震跡は、いつの時代にどんな規模の地震があったのかを知る手掛かりにもなり、地震研究の重要な対象の一つとなっています。この項では、天理市櫛本町の赤土山古墳で見つかった地震跡についてご紹介します。

赤土山古墳は出土した埴輪などから古墳時代前期（3世紀後半から4世紀初め）の築造と推定されていて、当時の豪族であった和邇<sup>わに</sup>氏の有力者の墳丘墓ではないかと考えられています。古墳は当初、前方後方墳と見られていましたが発掘調査が進むにつれて、後方と思われた部分は、実際は後円部の約半分が崩れ落ちている前方後円墳であることが分かりました（写真1）。かろうじて残っていた最下段からは、埴輪列や葺石が見つ

かり、本来の古墳の大きさを知る手掛かりになりました。

墳墓内を細かく調べてみると、周辺の丘陵地を形成している地盤の上に、古墳の墳頂から滑り落ちてきた地層が覆いかぶさっていることが認められました（写真2）。墳頂に並べられていた埴輪や敷石も一緒に落ちてきている点から、古墳が造られた後に崩落が起こったことが分かり、その原因は大きな地震ではないかと推測されました。

墳頂にあった埴輪は立ったまま地面ごと滑り落ち、その直後に土砂をかぶったようで、元の形をとどめたままの状態で見られました（写真3）。このことから、地震は古墳が築造された後、4世紀末～5世紀ごろに起こったものではないかと考えられました。

静岡県では、それとほぼ同時期に発生した東海地震の痕跡が確認されています。そして、東海地震と近い時期に東南海・南海地震の発生することが多いことから、赤土山古墳の地震跡は東南海・南海地震による可能性が高いと見られています。

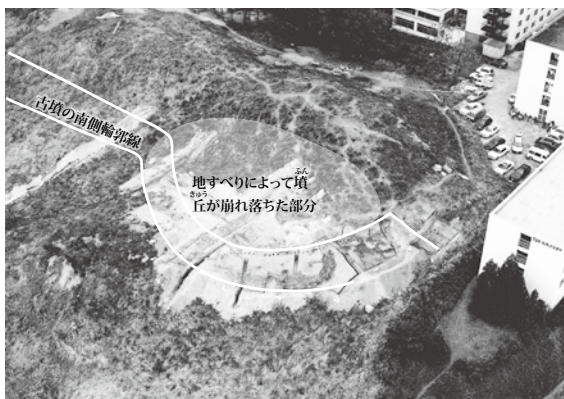


写真1 地震で変形した赤土山古墳  
(写真提供：天理市教育委員会)

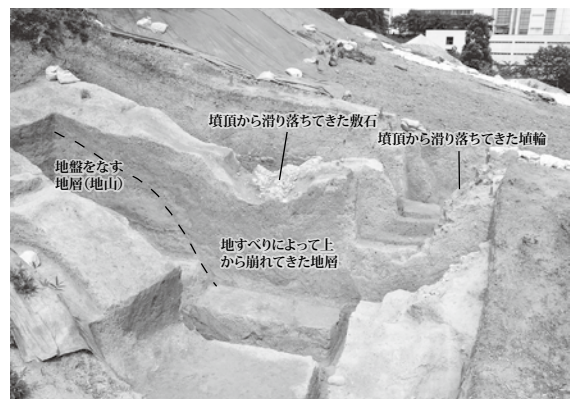


写真2 地層にあらわれた地滑りの跡  
(写真提供：天理市教育委員会)



写真3 大地震による地滑りで、古墳の墳頂から滑り落ちた埴輪列 (写真提供：天理市教育委員会)